

12

2005年

組合広報

NO. 468

よろこばれ 期待され 魅力ある

東京都鍍金工業組合
東京鍍金公害防止協同組合

URL <http://www.tmk.or.jp>

わたしの意見	全鍍連財政改革を断行	副理事長 姫野正弘	1
役員会委員会	理事長日誌、組合・関連団体行事予定		3
	都議会自民党鍍金工業振興議連と懇談会		4
	退職金づくりは「中退共」で		6
	都議会公明党と懇談会		7
あなたの予定表	1 月の環研・協組集荷日程ほか		
	訓練校 1 月授業案内		
	毒物劇物取扱者試験講習会のご案内		11
	全鍍連第 43 回全国大会		12
	ブロック会議の要旨		14
	第 42 回全国大会決議事項の経過報告・第 43 回全国大会宣言		16
	全国めっき技術コンクール表彰 (200 件)		18
	高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律		21
	十日会中国視察団 i n 昆山	十日会会長 斉藤晴久	22
	工業統計調査への協力のお願いほか		25
ピック・アップ	中国向け製販増強ほか		26
	ウエステック 2005、内田氏「21X 型ひっかけ治具」出版		28
お気に入りの散歩道	錦鯉の話	広根淳一 (葛飾支部)	30
つま恋坂	「ブログ」	内山雄介 (城東支部)	31
支部通信	品川・城南支部、城東支部、城西支部		32
	足立支部、三支部会		
	大田支部、葛飾支部		
	中小企業の景況		40

全鍍連財政改革を断行

副理事長 姫野正弘



平素は組合事業にご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、私が担当しております東京組合広報委員会と全国鍍金工業組合連合会総務委員会の活動状況を報告させていただきます。

東京組合の広報委員会は、今年度より長年ご尽力を頂いてきた城南支部の木村秀利委員長に代わって葛飾支部の神谷博行委員長となり、強力なリーダーシップを発揮して頂き、「お気に入りの散歩道」の常設欄も設けるなど、新しい組織で活発に活動をしています。各委員さんの協力により、より親しみやすい広報作りに努めておりますのでご支援ご協力をお願いいたします。

一方、全国鍍金工業組合連合会においては、今年度より東京組合の大村理事長が全鍍連会長に就任し、私が女房役として総務委員長を仰せつかりました。

すでにご案内のとおり、全鍍連の財政は危機的な状況になっております。平成 18 年度以降の財政状況を展望しますと、経産省からの委託事業として経営基盤強化事業による収入(1,200 万円)が来年 3 月をもって無くなり、この部分が確実に赤字となります。

大村会長より総務委員会が中心となって改革をしてほしいとの指示を頂きました。ただ手をこまねいて何もせず任期満了とすることもできますが、それでは全鍍連の明日がありません。きちんとした体制にして、次の方にバトンタッチするのが現執行部に課せられた責務であると考えております。

そこでまず第一に経費削減を優先して取り組むことにしました。

総務三役会において叩き台を作り、これを全国の総務委員のみなさんにお集まり頂いて検討し、色々な意見を汲み入れながら修正を重ねて参りました。しかし、この問題は一総務委員会だけでは対処出来ないこともあり、正副会長と総務委員長で構成する財政検討委員会を立ち上げました。総務三役会、総務委員会から上がってきた叩き台をもとに、財政検討委員会を開いて審議を進めて参りました。

まず経費削減を図らなければいけない、切れるものから切っていこうと考え、現在全鍍連役員委員さんに半額交付しております交通費負担が大きなウエイトを占めておりますので、なんとか撤廃をお願いすることにしました。さらに現在「全鍍連誌」を個々に郵送しておりますが、これを単組単位に一括送付することにより郵送料を大幅に削減し

ます。恒例の新年賀詞交歓会も取りやめます。さらに各種功労者への記念品贈呈を中止するなどにより、総額約 700 万円の経費削減を図ります。さらに役職員の人件費の見直しも行い、包括的に経費削減を図っていくことにしました。

これら改革案については去る 11 月 24 日の全国大会前の理事会で決定をして頂き、今後着実に経費削減を進めていきますが、さらに将来展望の中で、経費削減とともに賦課金値上げ等による増収案も慎重に検討していかなければなりません。大変厳しい経済環境にありますが、会員皆様の絶大なるご理解ご協力をお願い申し上げます。

これまで大村会長のリーダーシップにより、在任中に全鍍連の財政基盤を確固たるものにしようと、財政改革を進めてきましたが、特に地方の方々には大変なご理解ご協力を頂き、ようやく全鍍連の将来像が見えてきましたことを深く感謝申し上げます。

大村理事長日誌



11 月

- 1 日(火)全鍍連監事会
- 2 日(水)東京都中小企業団体中央会
正副理事長会・理事会
- 4 日(金)全鍍連財政検討委員会
- 8 日(火)全鍍連事務局
- 9 日(水)都議会自民党鍍金振興議連懇談会
- 11 日(金)全鍍連近畿ブロック会議
- 14 日(月)東京都中小企業団体中央会会議
鈴木隆道都議セミナー
- 17 日(木)東京都中小企業団体中央会事務局
- 18 日(金)城東支部産業ときめきフェア
- 21 日(月)自民党大田区大会
- 24 日(木)全鍍連財政検討委員会・常任理事
会・理事会・全国大会
- 29 日(火)佐藤裕彦都議セミナー

～組合・関連団体行事予定～

<平成 18 年>

- 1 月 6 日(金)都中央会新年賀詞交歓会
- 1 月 12 日(木)正副理事長会
新年賀詞交歓会(目黒雅叙園)
- 1 月 22 日(日)十日会新年賀詞交歓会
- 1 月 25 日(水)技能教育委員会
- 1 月 26 日(木)監事会
- 2 月 1 日(水)都中央会 50 周年記念式典
(東京国際フォーラム)
- 2 月 4 日(土)訓練校技能照査(実技)
- 2 月 7 日(火)広報委員会
- 2 月 8 日(水)正副理事長会・理事会
- 2 月 9 日(木)環境委員会
- 2 月 14 日(火)訓練校技能照査(学科)
- 2 月 28 日(火)訓練校成績判定会議
- 3 月 1 日(水)正副理事長会
- 3 月 2 日(木)全鍍連広報委員会
- 3 月 7 日(火)全鍍連国際委員会
- 3 月 8 日(水)全鍍連環境対策委員会
- 3 月 9 日(木)環境委員会
全鍍連技術委員会
- 3 月 14 日(火)全鍍連近代化促進委員会
- 3 月 17 日(金)訓練校修了式
- 3 月 24 日(金)訓練校素養調査
- 4 月 4 日(火)訓練校入校式
広報委員会
- 4 月 5 日(水)正副理事長会・理事会
- 4 月 19 日(水)監事会
- 4 月 20 日(木)環境委員会
全鍍連総務委員会
- 4 月 26 日(水)監事会
正副理事長会・理事会
- 5 月 26 日(金)正副理事長会
総代会
- 5 月 29 日(月)全鍍連常任理事会・理事会・
総会

都議会自民党鍍金工業振興議連と懇談会

東京都鍍金工業組合並びに東京鍍金公害防止協同組合は11月9日(水)午後5時から新宿モノリス 29 で都議会自由民主党鍍金工業振興議員連盟との業務懇談会を開催した。

議員連盟から大西英男会長はじめ副会長、幹事長、事務局長等 20 氏、組合から大村功作理事長、副理事長、専務理事、各委員長 11 氏が出席した。

懇談会は青木治郎専務理事の司会により、大村功作理事長は「お忙しい中を我々めっき業界のためにご参集を頂き厚くお礼申し上げます。議連とのお付き合いは 20 数年前にさかのぼり、大先輩が築いてくれたこの会が現在も盛大に開催出来ることを感謝している。過日の予算要望の折りはお世話になり感謝申し上げます。毎年同じようなことを要望しているが、我々にとって上下水道料金の減額措置は大きな力となっている。自民党の先生方には土壤汚染問題の解決を

お願いしているが、当業界にとっては死活にかかわる重大な問題であり、後ほど公防協組の小原専務理事から現状を説明するが、土壤汚染は両刃の剣のように、資産価値があった方がいいのか、資産価値がない方がいいのか、難しい問題を含んでいる。処理費用も高額であり我々業界では対応が難しい。平成 15 年に法律が出来たが、法律は過去にさかのぼってはいけないという大前提があるにもかかわらず土壤汚染については法律施行以前の過去が問われている。そういう問題を含めて先生方に色々お願いしてこの問題にどう取り組んでいけばよいかをご指導を頂きたい。私は全鍍連会長も引受けており、東京組合理事長と合わせて土壤汚染問題を中心に取り組んで行きたいと考えている」と挨拶した。

振興議連の大西英男会長は「本日はお招き頂き感謝申し上げます。いま大村理事長からお話が合ったように、土壤汚染問題では



大きな壁にぶつかっているが、私たち政治の役割はどんなに壁が厚かろうと打ち破って、行政や政治の力を待っている方のために、結果を出すのが役割であり、いま議連のみなさんと知恵を出し合いながら行政と打ち合わせている。大村理事長が全国の会長になられたが、東京から突破口を開いて、東京が国を動かして全国の業界のみなさんに対してしっかりとした対策を立てられるよう、後顧の憂いがなく仕事出来るよう、我々は希望を捨てず、倦まずたゆまず努力していきたい。今後とも情報交換を密にして共にみなさんの悩みや苦しみを我々も共有する思いであり、遠慮なくお申し付けを頂きたい。幸いに議連もわが党の1期生の優秀な方が加わり、若い力とともに伝統ある鍍金議連がみなさんのご期待に応えられるように頑張って参りたい」と挨拶した。

次に出席議員、組合役員の自己紹介があり、小原俊幸協組専務理事は「廃業した時の問題もさることながら、今後は事業を継続している事業所も大きなリスクを抱えながら事業をしなければいけないことが現実になっている。現在組合の環境プロジェクトが組合員にアンケート調査をしており、その結果を踏まえて業界の活動方針が決まってくるが、現在まで10数社の廃業があり、その事例について業界からのとらえ方について説明したい」とプロジェクターを用いて、土地所有者(売り手)の立場、買い手の立場、周辺住民の動き、金融機関の動き、行政、法律の概要などについて要点を説明した。

松原忠義幹事長から、東京都環境局の土壤汚染対策に関する小規模な事業者への主な支援策について次のように説明を頂いた。

①総合相談窓口

都庁第二本庁舎8階の環境局環境改善部

に設置した土壤汚染対策総合相談窓口では土壤汚染対策に関するご質問、ご相談に対し、どなたにもわかりやすくお答えしている。

②手引書・業種別パンフレット

環境確保条例に基づく届出書等の作成のための手引書や工場等の廃止時の土壤汚染状況調査の方法を解説したパンフレット(めっき工場編、クリーニング編、ガソリンスタンド編)を作成し、窓口で配布している。

③小規模な事業者向け説明会

小規模な事業者の方を対象とした説明会を随時開催し、環境確保条例や土壤汚染対策法に基づく調査、対策の方法や届出等についてわかりやすく解説する。

④区市職員説明会の実施

⑤都市型低コスト土壤汚染処理への取り組み促進に関する要請

(社)土壤環境センターに促進を要請をした。

⑥低コスト技術開発取組状況フォロー調査

要請に基づく各社の取組状況の報告を受け、審査の上、ホームページで公開することにより、取組みの活性化を図っている。

⑦土壤汚染対策セミナー

「土壤汚染の実態と不動産の評価」について、金融機関、不動産業、保健業を対象に土壤汚染に関する正しい理解を深め、適正な不動産評価を促している。

⑧低コスト、簡易迅速な調査方法の開発

民間企業等の研究開発技術を対象に、簡易・迅速測定法を公募し、優良技術を選別、改良を促し、都内の土壤調査に活用して低コスト化・迅速化を図っている。

⑨土壤汚染処理技術フォーラム

今回開催する土壤汚染フォーラムは、これらの小規模な事業者への支援策の一環で、

土壌汚染処理の市場に競争を促し、狭い土地で適用できる低コスト処理技術の開発促進及び土地の有効利用を図ろうとするもの。
⑩都内土壌汚染調査・処理事例のデータベース化

具体的な事例を示し、対策を必要とする側と調査・処理を請け負う側への情報提供となるとともに、関連業界や一般都民に土壌汚染対策への情報提供を行う。

⑪総合的な情報の提供

ホームページでは、土壌汚染対策法や環境確保条例の概要、環境確保条例に関するQ&A集、法に基づく指定区域の指定状況等の情報を掲載するとともに手引書やパンフレット類をダウンロードできるようにしている。

(<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/>)

また、「土壌調査や処理費等の補助については難しい状況だが、粘り強く働きかけていきたい」との説明を頂いた。

このあと土壌汚染問題について意見交換を行い、最後に姫野正弘副理事長は「大西会長はじめ先生方から大変心強いお話を頂いた。大村理事長は全鍍連並びに都中央会の会長を拝命しており、業界が一致団結して、都議会の先生方のお力添えを得ながらめっき業界が死に絶えることのないよう、次の世代にきちんとした形で引継げるよう今後ともお力添えをお願い申し上げる」と閉会の辞を述べ懇談会を終了した。

退職金づくりは「中退共」で

中退共制度(中小企業退職金共済制度)は、退職金制度を持つことが困難な中小企業に、中小企業の方の相互共済と国の援助で退職金制度を確立することを目的として作られた国の制度です。

—中退共制度の特色—

- ☆国の制度なので安全・確実・有利です。
- ☆適格退職年金制度からの移行先となっております。
- ☆掛金を納めるだけで企業の実態にあった退職金制度を手軽にもつことができます。
- ☆掛金の一部を国が助成します。
- ☆掛金は税法上、損金又は必要経費として全額非課税になります。
- ☆過去の勤務期間通算や、企業間を転職した場合などの通算ができます。

—掛金の種類—

月額 5,000 円から 30,000 円までの 16 種類です。
短時間労働者(1 週間の所定労働時間が通常の従業員より短く、かつ 30 時間未満の従業員)は、2,000 円・3,000 円・4,000 円の特例掛金でも加入できます。

—加入の手続き—

所定の申込書に記入・押印のうえお近くの金融機関または委託事業主団体へ申し込んでください。

—お問い合わせ先—

中退共本部 TEL03-3436-0151(代)、ホームページ <http://chutaikyo.taisiyokukin.go.jp>

都議会公明党と懇談会

東京都鍍金工業組合並びに東京鍍金公害防止協同組合は12月1日(木)午後5時から新宿モノリス 29 で都議会公明党議員と水質規制問題等について業務懇談会を開催した。

当日は、都議会公明党議員の石井義修幹事長はじめ9氏、組合から大村功作理事長、副理事長、専務理事等9氏が出席した。

青木治郎専務理事の司会により、はじめに大村理事長は「お忙しいなかをご出席を賜り感謝申し上げます。環境問題については大変お世話になっているが、ほう素ふっ素等についてはまだ処理技術がなく、仮に処理出来てもスラッジが大量に出るなどの問題があり暫定基準の再延長をお願いしたい。また亜鉛の規制強化の動きがあり、全鍍連としても審議会に出席して要望したり、種々情報の入手に努めているが、水源地の関係で健康項目として0.03ppm、通常の10

倍規制で0.3ppm となるが、めっき業者にとってはとても無理な数値で、現行の5ppm でも厳しいので何とか現行となるよう要望していきたい。いま産業廃棄物が問題になっており、後程小原専務理事から説明したい。我々にとって土壤汚染問題が最大の問題であるが、法律が過去にさかのぼってはいけないという問題もあるが、工場の廃止届を出すと同時に調査しなければいけない厳しい状況になっている。この問題でどう対処すればよいのかまだ組合の目標が定まっていない。両刃の剣のようなところがあり、土地の評価がゼロとなり相続税を払うならその土地は要らないという後継者が出てくるだろう。反対に土地評価をゼロにすると、お金を借りられないなどの問題が出て、こちらをお願いすると、一方が成り立たないということで組合としてもどちらに的を絞ればよいのか判断を迷ってい



る。いずれにしても大きな問題であり、来年にははっきりと方向を定めてお願いしたいと思っている」と挨拶をした。

都議会公明党の石井幹事長は「懇談の機会を設けて頂き感謝申し上げます。ほう素ふっ素の問題では具体的な処理技術が開発されていない中で、さらなる規制強化はできないと思う。私どもは垂鉛規制を含めて確りと受け止めていきたい。アスベスト、ダイオキシンが大きな問題となっているが、ダイオキシンの処理では国あるいは自治体が対策費を出すのか細かい詰めが出来ていない。誰が負担するかルールをしっかり作ることが大事である。土壤汚染問題では目標を探っているということだが、公明党としても様々な調査活動をしている」と挨拶した。

自己紹介の中で、PCBの処理場が全国4ヶ所、東京ではお台場に完成し稼働したことが報告された。

姫野正弘副理事長から「ほう素ふっ素問題ではお世話になったがさらなるご尽力をお願いしたい」と要請した。

小原俊幸協組専務理事からは産業廃棄物問題について、東京都の中央防波堤外側埋立処分場を、無機性無害汚泥の処分に利用させていただいているが、いずれ使えなくなった時どうするか、いまから対策を考えていかないといけない。福島県にあって当組合処理センターの運営をお願いしていた日曹金属化学㈱の産廃処理工場があり、現在も処理センターや組合員事業所から発生する有害汚泥等の処理をお願いしている。昨年4月から、産廃物の受入に際して福島県との事前協議が必要となった。事前協議には約3ヶ月を要し、域内処理が原則であるので、なるべくならば受入れたくないというのが福島県の本音のようで、産廃物によっては受入れてもらえない場合もある。東京都は都内で発生する小零細事業所の産

廃物が都内で処分できるように検討する必要があると考える。PCBの処理が開始されたことで、当組合も早期登録し保管しているコンデンサーの処理をお願いしている。その施設は当組合の処理センターより高圧でPCBを処理すると聞いており、PCB処理が終わればシアンを処理できる可能性があると考えられる。度々、法改正が行われていることから産業廃棄物問題は今後さらに厳しくなっていくと考える。めっき業から発生する汚泥中には有価金属が含まれており、財団法人造水促進センターの委員会で、一昨年から汚泥中の有価金属を回収しようと経産省の助成を頂いて当組合も参加して検討を行っている。現実には、金、銀などの付加価値が高い金属は回収メリットがあるが、価値が低い金属は技術的には回収出来てもコスト的には合わない問題がある。当組合も色々と研究を行っており、本年は新潟県の出雲崎に第三セクター方式で設置されたエコパークいずもさきを見学した。素晴らしい設備を導入した処分場であるが、当初は浸出水の塩分による被害が発生していたとのことであった。多額の費用をかけた施設であるが、今後利用できる期間は、10年程であるという。大変な費用をかけた施設で、現在の中防処分場の受入処分料ではとても受入れられないだろう。当組合はめっき業界の濃厚シアン廃液処理、産廃物を扱っているが、今後は色々なものを手掛けていかなければいけない。関連する産業廃棄物処理業者、収集運搬業者の皆さんと連携しながらめっき業界のために組合を発展させていきたいと考えており、ご支援をお願いしたいと要請した。

石井幹事長からはこれを平成18年度東京都予算要望に入れたいという話を頂いた。その他水質規制問題などについて意見交換を行い、最後に川上洋一副理事長の閉会の辞で懇談会を終了した。

1 月 あなたの予定表

日	曜	役員会・委員会他	環研集荷(ブロック長)	協 組 集 荷	メ モ
1	日	元旦			
2	月				
3	火				
4	水				
5	木			城東支部(仕事始め)	
6	金			葛飾支部	都中央会新年賀詞交歓会
7	土				
8	日				
9	月	成人の日			
10	火			城北支部	
11	水		城南支部	中央支部	
12	木	正副理事長会 新年賀詞交歓会	大田支部	目黒・世田谷地区	
13	金			葛飾支部	
14	土				
15	日				
16	月		品川支部・大田支部	足立支部	
17	火		城西支部		
18	水		城西支部・城北支部	西部支部	
19	木			品川地区	
20	金		中央支部・本所支部	葛飾支部	
21	土				
22	日				十日会新年会
23	月		向島支部	向島支部	
24	火			本所支部	
25	水	技能教育委員会	西部支部		
26	木	監事会	城東支部・葛飾支部	蒲田・大森地区	
27	金		葛飾支部	葛飾支部	
28	土				
29	日				
30	月			城西支部	
31	火		足立支部		

(役員会、委員会に変更する場合がありますので、本部からの通知をご確認下さい)

1 月 高等職業訓練校授業案内

授業日(火・金) 授業時間(A:14:00～17:00 B:17:00～20:00 C:17:00～20:30)				
日	曜	時	科 目	内 容(予 定)
13	金	A	はく離① (めっき法)	めっき皮膜のはく離方法 メルテックス㈱ 岩沢裕之
		C	環境法令① (安全衛生)	環境法規の体系、東京都環境条例の解説 東京都鍍金工業組合環研 志賀孝作
17	火	A	はく離② (めっき法)	素地金属及びめっき金属の確認、はく離の化学、皮膜確認。 技能照査説明 メルテックス㈱ 岩沢裕之
		C	環境法令② (安全衛生)	水質汚濁及び水質汚濁防止のメカニズムと法令、排水処理方法等。 東京都立産業技術研究所 小坂 幸夫
20	金	A	ひっかけ治具③ (めっき法)	ひっかけ治具の製作(技能照査実技試験用) 技能照査説明 海野鍍金工業㈱ 海野吉正、鍍金組合環研 長嶋政人
		C	環境法令③ (安全衛生)	東京都環境保全条例の解説。 東京都鍍金工業組合環研 志賀 孝作
24	火	A	品質管理① (生産工学概論)	品質管理、工程管理、工程改善、作業標準化、管理図等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		C	環境法令④ (安全衛生)	環境基本法、大気・水質・振動騒音防止対策の総括 【公害防止管理者資格試験】 鍍金組合環研 長嶋政人
27	金	A	品質管理② (生産工学概論)	不良対策 6 ステップ、不良の確認法、原因の解析法、工程の改善、発生防止等。 矢部技術事務所 矢部 賢
		B	塗装 (金属表面処理)	目的、塗装法の選定、下地の調整、塗料の種類と成分等。 日本大学生産工学部 大野 茂
31	火	A	電着塗装 (金属表面処理)	原理、長所、短所、カチオン・アニオン電着の機構、電着塗膜の性能 日本大学生産工学部 大野 茂
		B	原価管理① (生産工学概論)	品質保証、品質マニュアル事例、国際規格審査登録等の解説 ㈱平和工業 内藤 雅文

※聴講料は 1 科目クーポン券 3 枚、又は 7500 円です。

平成 18 年 1 月

各 位

毒物劇物取扱者試験講習会のご案内

東京都鍍金工業組合

平成 18 年度の東京都毒物劇物取扱者試験が 7 月上旬頃に予定されております。

当組合では、試験対策講習会を実施する予定ですので、受験を予定されている方は、是非受講されるようご案内申し上げます。

なお、下記の要領で行う予定ですので、受講をご希望の方は、申込書に必要事項をご記入の上、下記の宛先に郵送又は F A X にて申込み下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 講習日程

回 数	期 日	時 間	科 目	講 師
第 1 回	4 月 12 日 (水)	18:00~21:00	基礎化学・物理	志賀孝作
第 2 回	4 月 19 日 (水)	〃	基礎化学・物理	
第 3 回	5 月 10 日 (水)	〃	基礎化学・物理	
第 4 回	5 月 17 日 (水)	〃	法 規	斉藤弘幸
第 5 回	5 月 24 日 (水)	〃	法 規	
第 6 回	5 月 31 日 (水)	〃	法 規	
第 7 回	6 月 7 日 (水)	〃	各 論	長嶋政人
第 8 回	6 月 14 日 (水)	〃	各 論	
第 9 回	6 月 21 日 (水)	〃	各 論	
第 10 回	6 月 28 日 (水)	〃	まとめ	

※なお、工業高等学校又はこれと同等以上の学校で応用化学に関する学科を修了した方は「毒物劇物取扱責任者」の資格があるので受験する必要はありません。

2. 講習会場 めっきセンター4階会議室（所在地：文京区湯島 1-11-10）

3. 講 師 組合環境科学研究所職員

4. 受講料金（テキスト代を含む） 第 1 回目の講習日にお支払ください。

組合員 20,000 円

訓練生 15,000 円

員 外 25,000 円

5. 定員 45 名

（但し、申込者が少ない場合は、講習会を中止する場合がございますのでご了承ください。）

6. 申込締切日 平成 18 年 3 月 24 日（金）

7. 申込先 東京都鍍金工業組合 事務局

所在地 〒113-0034 文京区湯島 1-11-10

電 話 03（3814）5621 FAX 03（3816）6166

* 申込者が複数になる場合は、申込書をコピーして使って下さい。

ご不明の点がございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

全鍍連第 43 回全国大会

大会宣言「環境との共生／地球にやさしいモノづくり」採択

全国鍍金工業組合連合会(大村功作会長)は、11月24日(木)午後2時から芝公園の機械振興会館で来賓、各組合代表者多数が出席して第43回全国大会を盛大に開催した。大会宣言(スローガン)「環境との共生／地球にやさしいモノづくりー世界に誇れるめっき業ー」を採択し、業界を挙げて推進していくことにした。

大会は、姫野正弘総務委員長の司会により、鈴木喜代壽副会長の開会の辞、国歌斉唱、業界関係物故者への黙とうのあと、主催者を代表して大村会長が「第43回全国大会を開催したところ、ご来賓をはじめ特別賛助会員、組合員のみなさんの多数のご出席を賜り厚くお礼申し上げます。今年に入り、日本経済は踊り場を脱却し緩やかな回復基調にあるとマスコミは報じている。大企業では大きな利益を上げているが、私ども中小零細企業の業界にあっては回復を肌で感じることはできない。その要因として、原油高騰、材料費値上がり、環境対策、親企業からのコストダウン要請な

どがあるが、特に環境問題では厳しい規制が次々と押し寄せている。環境問題を話すと切りがないが、特に土壤汚染問題は我々企業の死活問題となっている。みなさんの協力により1つ1つ問題を解決してこの厳しい時代を乗り切っていきたい。どうか温かいご支援をお願い申し上げます」と挨拶した。



大会表彰は始めに特別功労賞が(株)中央製作所代表取締役社長・(社)日本表面処理機材工業会副会長の後藤安邦氏に贈られた(写真)。



笠間則文副会長が次の様に功績を披露した。

後藤氏は、永年にわたりめっき機材の開発、特に産学官連携による研究事業を通じてめっき技術及び生産性の向上並びに環境負荷の低減に大きな成果を挙げるとともに、全鍍連および工業組合の諸事業に多大な協力を行い、めっき業界の振興発展に著しく貢献された。殊に、平成 6～8 年度に中小企業事業団の中小企業労働力確保対策技術開発事業「電気めっき工程の自動化」において全鍍連に協力して装置開発を推進した。また、愛知県鍍金工業組合、名古屋市工業研究所等と連携して開発した「無排水処理エコプレーティング亜鉛メッキ」が高く評価され、地球環境問題の解決に向けた環境関連技術により、愛知万博記念「愛・地球賞」を受賞された。

続いて、長年にわたり組合運営に功労のあった組合役員 17 名及び環境整備優良事業所表彰(9 社、東京組合該当者なし)を行った。受賞者(社)は次の通り。

組合功労役員表彰(17 名)

<栃木組合>大戸由治(ミサト工業(有))、本間靖昌(不二メッキ工業(有))、<埼玉組合>今田三郎((有)今田理研)、<神奈川組合>石田幹雄(石田電化工業(株))、<東京組合>木下健次(木下電化工業(株))、元井民夫((有)元井鍍金工場)、小嶋摂郎((株)小嶋メッキ工業所)、半田實((有)半田鍍金工業所)、小橋秀一((株)清化学)、小谷野英勝((株)トーテック)、原清一((有)伊豆鍍金工業所)、山田英佐夫((株)東電工舎)、西原敬一(ニシハラ理工(株))、<岐阜組合>山口義明(山口鍍金工業(株))、<京都組合>寺田理((株)キョークロ)、小林明洋((株)小林工業所)、<兵庫組合>永田晋也((株)永田商店)

環境整備優良事業所表彰(9 社)

<東北組合>(株)大協製作所福島工場、<群馬組合>東和鍍金(株)、<愛知組合>三鷹金属工業(株)、栄鍍金工業(株)、<京都組合>(株)旭プレシジョン本社工場、(株)旭プレシジョン京都南工場、<大阪組合>(株)ナクロ、(株)

彫刻グラビヤ、<兵庫組合>(株)白浜工業所

続いて全国めっき技術コンクール表彰では、厚生労働大臣賞をはじめ、別掲の通り入賞者の表彰が行われた。

大村会長が議長に就いて大会議事に入った。まず第 42 回全国大会の決議事項の経過を由田猛近代化推進委員長が報告、布袋屋皓造専務理事が今年開催された 5 ブロック会議の経過報告を行った。本大会宣言案(スローガン)「環境との共生/地球にやさしいモノづくりー世界に誇れるめっき業ー」の意見発表を神谷文吾環境対策委員長が行い、満場一致でこれを採択した。決議事項は各工業組合、関係官庁、関係団体の協力を仰ぎながら業界の総力を挙げて推進していくことにした。最後に、常任顧問の島村周作、石井博、渡邊正勝の 3 氏による万歳三唱、吉田勇副会長の閉会の辞をもって大会を終了した。

4 時から懇親パーティに入り、山田登三雄総務副委員長の司会により、宮阪東明副会長の開宴の辞、大村会長の挨拶、来賓として経済産業省製造産業局非鉄金属課中山亨課長、全国中小企業団体中央会橋本一美企画部長、表面技術協会高谷松文会長から挨拶を頂いた。ここで、秋の叙勲で、全鍍連元会長で現常任顧問の島村周作氏と、千葉県鍍金工業組合理事長の柴崎三郎氏が永年にわたるめっき業界での功績により共に旭日双光章受章の栄に浴され、また、東北組合・(株)ケディカの菱沼富男氏、東京組合・(株)三ツ矢の小澤茂男氏、四国組合・高知精工メッキ(株)の神田三男氏が、現代の名工として厚生労働大臣より表彰されたことが披露され、盛大な祝福の拍手がおくられた。経済産業省製造産業局非鉄金属課生産流通係谷 聖尋係長の乾杯の発声で懇親会に入った

ブロック会議の要旨

1. ブロック会議の開催日

9/16 北海道・東北ブロック会議、10/20 関東甲信越静岡ブロック 会議、10/21 東海・北陸ブロック会議、10/28 中国・四国・九州ブロック、11/11 近畿ブロック 会議

2. 要望事項等

全鍍連等に対する要望事項は、29 項目になりました。要望順位の多いものについて、要旨を申し上げます。

Q 全鍍連の財政基盤や事業内容を見直した上で賦課金のあり方を検討して欲しい(13 組合)。

A 賦課金方式は、昨年度も総務委員会を中心として、種々検討されました。しかし、経営基盤強化事業が 17 年度末で一段落を迎えることにより、約 1,200 万円の収入が無くなります。この影響で、全鍍連の財政状況が極度に悪化致します。その打開策を話し合う為に、正副会長会等で財政検討委員会を作り、検討を開始しておりますので、是非、総務委員会等で、ご意見を頂戴したいものと考えております。

因みに、17 年度予算の概略を申しあげると、一般管理費 62 百万円に対し、賦課金等の収入 51 百万円、経営基盤強化事業を含めた常設委員会からの剰余金 5 百万円、前年度繰越剰余金 の繰入額 6 百万円で構成されております。(17 年度末の繰越金見込み額 80 万円)

18 年度以降を展望すると、経営基盤強化事業の収入 1,200 万円がなくなるので、常設委員会からの剰余金が無くなり、且つ繰越剰余金も、略、底を突いてまいります。

以上の状況を踏まえて、組織や財政問題等についてご議論頂き、17 年度中に結論が得られるものと考えております。

Q 環境問題に対し、より迅速かつ積極的な対応を望む。(7 組合)

A 行政側に要望する事項として、弗素、硼素、窒素の暫定排水基準問題と亜鉛の排水規制問題を念頭に置いております。いずれの問題も組合員の現状把握がポイントになるという考え方の下に、組合員の方々に・年 2 回・排水濃度測定調査をお願いして、データの集積に努めております。然るに、組合員数が約 1900 にも拘らず、各元素の測定事業所が 700 弱程度のデータしか把握出来ておりません。この 700 事業所のデータを分析した結果が鍍金業界の全体像を示しているのであれば問題はありませんが、もし、違うのであれば、行政側に要望した結果が業界の意図に反することになる可能性があります。即ち、700 社のデータが電気めっき業界の実情を反映していると判断され、暫定値を議論する時に活用される事になります。その為、事務局としては、もっと沢山の会社が各元素を使って仕事をしていると思っておりますので、業界の実情をより多く反映させる為に、測定データーを送って頂きたいと考えております。

Q 「環境の世紀」を御旗にされると、あらゆる環境問題に対し、わが業界は全てに関わることになるってくる。新たな排水規制の施行等においても、業界の立場を明確に理解してもらえよう人間関係を行政側との間に築いてほしい。又、全鍍連の健全な機能は当業界の発展に不可欠であり、経済産業省と良く連携し、当業界が発展できるよう力添えを願う。(3 組合)

A ご指摘のように、環境行政を司っている環境省とは、直接的な人的関係はありません。(現業を所管していない省庁とは、審議会委員を通しての接触になります)全鍍連は、経済産業省非鉄金属課に業界の実情を理解してもらい、且つ要望を具体化して頂いております。(担当者とは、日々密に接触いたしております)製造業全体を所管している経済産業省は、各現課で掌握している業界の実情を取り纏めて、全ての所管業種が耐えうる数値を基にして、環境省と交渉致します。又、正副会長会等の承認の下で、あらゆるルートを駆使して審議会委員に接触し、

わが業界の実情を理解して頂くことに進めております。更に、大村会長及び環境委員会三役と相談をして、機会ある毎に陳情致しております。

①6月9日、製造産業局中山非鉄金属課長に「生活関連項目に関わる亜鉛の排水基準についての検討が環境省で開始された際には、現状の健康項目で定められている排水基準を維持して頂きたい」と言う主旨の要請書を提出した。

②7月8日、大村会長及び姫野総務委員長、川上環境副委員長共々、経済産業省保坂副大臣を訪問する機会がありましたので、中山非鉄金属課長同席の下、6月9日提出の要望書を持参し、陳情いたしました。

③各工業組合においても、陳情に値する問題等があれば、その案件を送付して下さい。会長始め担当委員会三役等と相談して「めっき業界全体として陳情に値する」案件であれば、行動するのに吝かではありません。

Q 土壤汚染対策について、めっき業界の実態を理解され財政支援を含め特別の配慮をお願いしたい。(6 組合)

A 土壤汚染については、電気めっき業だけでなく大企業から中小企業まで広範に亘っており、他業界との共同歩調を取る事が必要と思っております。一方、行政側の財政支援に対する基本的な考え方として、私有財産を形成する様な助成は、助成の対象としておりません。このことを念頭に置きつつ、もし、補助金を要求する場合は、以下の要素を満たすことが必要になると思います。即ち、被害状況の全体像を把握しなければなりません。

被害地域の分布状況、その件数、処理方法、処理方法決定の根拠、概略の工事金額、工事金額の算定根拠、処理年数を勘案しながら、年度の補助金額と処理件数が決定されます。その代償とし、自分の財産の中身を公表する事になります。この為、全鍍連として、「財政支援を要求するのが良いのか悪いのか。」を、判断する必要があります。

幸いにも、全国中小企業団体中央会が、環境税の項目で、「汚染された土地について、負担の軽減を図るため、固定資産評価基準の見直しや償却を可能にするなどの措置を講ずること」という条文を掲げておりますので、その動向を見守りたいと思います。

Q 土壤汚染対策や排水に関わる簡易で低廉な処理技術の開発促進に力を入れて欲しい(3 組合)

A 土壤汚染対策も排水対策も含有されている内容物等によっては対応方法が異なりますので、一つの方法で解決できないことをご理解頂きたいと思います。

土壤汚染対策については、本年6月9日、東京都環境局が「土壤汚染処理技術フォーラム」を開催し、関係業界の処理技術を紹介いたしておりますので、ご参照下さい。

排水関係については、本年度も環境省が募集を致しましたが、めっき業界で応募する会社はありませんでした。(各組合には、応募要領をお知らせしております)

残念ながら、全鍍連では、補助金事業を受けるに必要な実験を行う事業場や補助金以外の費用が計上されておられません。寧ろ、各組合で傘下企業とタイアップして補助事業を申請する方が、早道と思います。

Q 補助事業等の積極的推進(2 組合)

A 前述の如く、補助事業を受けるのに必要な、実験を行う事業場や補助金の裏負担をする費用を計上しておられませんので、かなり難しいと思います。18年度の委託事業については、「めっき工程での鉛及び六価クロメート皮膜に関する調査」で、担当課にお願いしているところです。事務局でも、中々、めっき業界全般に行き渡る調査項目が思い浮かばないので、適当な調査項目があったら教えて下さい。委託事業に乗るのかどうかを検討いたします。

第 42 回全国大会決議事項の経過報告

平成 16 年 11 月に開催された第 42 回全国大会では、「小さな芽を育てようー Cheers ! 変化への挑戦」を大会スローガンとして採択しました。本スローガンに関する実施経過は次の通りです。

「中小企業新事業活動促進法」が平成 17 年 4 月 13 日に施行され、異業種連携による新事業にチャレンジする中小企業を支援する「新連携支援制度」がスタートしました。

中小企業新事業活動促進法は、中小企業経営革新支援法、中小創造法、新事業創出促進法の中小支援 3 法を一本化し、新たに制定したもので、①高度な技術を有する中小企業が連携し、大企業が自社では解決困難であった課題について、ソリューションとなる製品・サービスを開発・提供。②独自の技術を有する中小企業が研究機関等と連携し、大企業よりも先んじて消費者市場ニーズに対して新たな製品を提案。③地場産業の再生を目指し、地域の下請け企業が連携して新製品を提案する等、新しい中小企業等の成長を促しているものであります。

こうした中、“新連携”の動きが加速しはじめてきています。これは、従来の取引関係を基本にしたものではなく、新しい経営戦略として受けとめられようとしています。その一例を述べますと、産業クラスター形成推進事業や地域新生コンソーシアム研究開発事業などに果敢に挑戦し、その共同研究等を発展させる形として事業化に取り組むものや、異業種交流会・展示会等で出会った企業と積極的に意見交換を行ったことがきっかけとなったもの、同じインキュベーション施設に入居したことがきっかけとなったものやコア企業がビジネスアイデアを実現するために、連携先を発掘したものなど様々であります。

そのきっかけとなるのが、情報収集とそれを利用する人とのあり方にあるのではないのでしょうか。昨年の全国大会と同様、元気な企業に共通するのは、情報収集の高さにあります。全銀連は引き続き、組合員企業の新たな喚起を促すため、有益な情報提供を目指していききたいと思います。

このように国が認定されたプロジェクトに参加する個別企業に対し、国・県等は補助金や政府系金融機関の低利融資による支援に加え、地域ブロックごとに設置された「新連携支援地域戦略会議」の事務局が販売戦略の具体化など必要なアドバイスを実施し、市場化をめざしたサポートを積極的に行っております。また、地域の金融機関を巻き込みつつ、事業計画のブラッシュアップなどの支援を行うこととしており、政府系金融機関だけでなく、民間金融機関からの融資も多くのケースで実現しています。

そして今後、経済産業省中小企業庁は、めっき業は製造業の基盤技術を担う重要な技術分野として捉えており、新たな施策を検討しております。

こうした動きに対し、全銀連はめっき企業が元気になるためのカンフル剤として、さらにはその中核となるよう、これからも鋭意努力してまいります。

第 43 回全国大会宣言(スローガン)

環境との共生／地球にやさしいモノづくり —世界に誇れるめっき業—

産業革命以来、工業生産力の向上は人類に物質的な豊かさをもたらしましたが、資源の多量消費に伴い、人の健康や自然環境に対する悪影響を防ぐため、環境との共生をはかる「地球にやさしいモノづくり」が求められております。めっき業は多種の化学物質を使用しており、環境問題は決して避けることのできない課題です。

環境保全への取り組みは企業の責務であり、企業を評価する重要な要素となっていることを認識しなければなりません。メーカーでは環境対応への軽重を尺度として発注先を選定する動きが広がっております。地域住民、金融機関、行政、従業員はそれぞれの立場から企業の取り組みに注目しております。進んだ事例として、環境報告書や見学会など、地域との交流を通じて理解を得ていくというケースも始まっています。今後、各企業は、経営戦略の重点項目に環境対応を位置付けることが必要となります。

環境規制は質的な変化を起こしております。従来の規制は、水濁法の排水基準が中心でした。最近では、化学物質の排出量の届出と公表を行う P R T R 法、水生生物の保全を考慮した新たな水質規制、V O C の排出濃度規制と自主的削減を組み合わせる手法など新しい考え方による法規制が生まれています。

また、IS014000 シリーズなど、企業内の管理体制を評価し認証する制度、欧州規制に始まる製品中の微量な有害物質を禁止する規制、生産工程での有害物質使用への配慮などが見られます。

すなわち、自然環境への排出制限から、製品、加工方法、管理体制、情報公開へと取り組むべき範囲が広がっております。自社の生産工程を再点検する時です。

昨今、めっき工場からの有害化学物質流出事故が、再三、マスコミ報道されるという残念な事態が生じました。改めて事故防止に万全を期すとともに、不幸にして万一発生した場合には、環境への影響を最小限に食い止めるための緊急対策を施し、関係機関等への連絡を迅速に行うことが責務です。

個々の組合員、都道府県工業組合、全鍍連の 3 者が一体となって、高度な品質と環境との共生を両立した「世界に誇れるめっき業」を構築していこうではありませんか。

全国めっき技術コンクール表彰(200 件)

厚生労働大臣賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

旭産業(株) (神奈川)

【装飾クロムめっき部門】

メテック北村(株) 増谷尚丈 (京都)

【亜鉛めっき部門】

(株)ユニゾーン 柳内泰弘 (富山)

厚生労働省職業能力開発局長賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

清川メッキ工業(株)B チーム (福井)

【装飾クロムめっき部門】

(株)九州電化 川添佑典 (九州)

【亜鉛めっき部門】

宇都宮タマル工業(株) (栃木)

中央職業能力開発協会会長賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

明光工業(株) 高橋明久 (愛知)

清川メッキ工業(株)A チーム (福井)

【装飾クロムめっき部門】

清川メッキ工業(株)B チーム (福井)

清川メッキ工業(株)C チーム (福井)

【亜鉛めっき部門】

鈴木鍍金工業(株) 鈴木泰造 (愛知)

緒方工業(株) 渡邊 恵 (九州)

日刊工業新聞社賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

三光製作(株) 山岸伸二 (静岡)

(株)エコー 森本 宏 (大阪)

【装飾クロムめっき部門】

白金鍍金工業(株) 重信 誠 (愛知)

(株)ユニゾーン 高木優行 (富山)

【亜鉛めっき部門】

明光工業(株) 橋本修平 (愛知)

清川メッキ工業(株)A チーム (福井)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 金賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

三光製作(株) 小林範夫 (静岡)

三光製作(株) 鈴木 誠 (静岡)

(株)ユニゾーン 浅野 憲次 (富山)

清川メッキ工業(株)C チーム (福井)

【装飾クロムめっき部門】

スズキハイテック(株) (東北)

明光工業(株) 永山利夫 (愛知)

清川メッキ工業(株)A チーム (福井)

メテック北村(株)

本部技術部 中井庸司 (京都)

【亜鉛めっき部門】

(有)五十嵐鍍金工場 五十嵐康夫(東京)

硬化クローム工業(株) 朱雀卓郎(東京)

神谷電化工業(株) 神谷昌孝 (東京)

(株)協和 高崎工場 奥村悦子 (東京)

(株)さくら鍍金 小林光司 (東京)

(株)真工杜 大澤征己 (東京)

(株)タイホー 佐々木和慶 (東京)

(株)特殊鍍金化工所 橋本典和 (東京)

ニシハラ理工(株) 飯塚昌也 (東京)

(有)南陽プレイティング泉澤智志(東京)

(有)洋洋工業 澤本文広 (東京)

清川メッキ工業(株)C チーム (福井)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 銀賞

【研磨一装飾クロムめっき部門】

(株)光 陽 (群馬)

八幡鍍金工業(株) 八幡浩二 (東京)

白金鍍金工業(株) 堀江宏明 (愛知)

(株)太洋工作所 日野義明 (大阪)

【装飾クロムめっき部門】

旭産業(株) 北村武雄 (神奈川)

ヤマハ(株) 向井久明 (静岡)

(株)サーテックカリヤ

加藤豊治・長坂浩史 (愛知)

(株)エコー 森本宏 (大阪)

【亜鉛めっき部門】

(株)大宮鍍金工業 高柳信宏 (東京)

(株)協和 高崎工場 中村佳裕 (東京)

新 東(株) 稲村朋広 (東京)

(有)富士友工業所 下平 勲 (東京)

三光製作(株) 鈴木喜郎 (静岡)

伊藤工業(株) (愛知)

(株)サーテックカリヤ

仲川元彦・岩田健一 (愛知)

(株)ダイワエクセル
豊橋製造部 B チーム (愛知)
(株)大和電化工業所 角屋俊幸 (愛知)
白金鍍金工業(株) 今田新太 (愛知)
オーエム産業(株)

めっき部技術係 剣持仁志 (岡山)
(株)九州電化 山崎時久 (九州)

全国鍍金工業組合連合会会長賞 銅賞

【研磨・装飾クロムめっき部門】

(株)吉崎メッキ化工所 石原裕之(東京)
サン工業(株) 橋爪祥吉 (長野)
神谷理研(株) 澤山大輔 (静岡)
神谷理研(株) 鈴木智幸 (静岡)
神谷理研(株) 鈴木貴士 (静岡)
(株)サーテックカリヤ

大島康宏・山田光則 (愛知)
(株)二村研磨工業所 (愛知)
赤瀬工業(株) 赤瀬章吾 (大阪)
アルファメック(株) 前田 仁 (大阪)
オテック(株) 加賀裕人 (大阪)
(株)金澤鍍金工業所 野尻泰行 (大阪)
帝国イオン(株) 小松和弘 (大阪)
塚本鍍金工業(株) 横田 宏 (大阪)
(株)サトーセン

特化事業部 白石大輔 (大阪)
清水鍍研材(株) 清水 肇 (大阪)
(株)土井鍍金 田中孝典 (大阪)
(株)西村ケミテック 木下 聖 (大阪)
日本マクダーミッド(株)前川秀旭(大阪)
(株)NEOMAXマテリアル

坪井祥晴 (大阪)
野口工機(株) 山下三幸 (大阪)
(株)野村鍍金 來間常郎 (大阪)
日之出電鍍(株) 栗阪稔雄 (大阪)
(株)三原産業 大谷はるか (大阪)
(有)武田鍍金工業所 (四国)

石川金属工業(株)
荒木純一・沖西成人 (九州)
石川金属工業(株)
宮崎繁雄・沖西成人 (九州)

【装飾クロムめっき部門】

宇都宮タマル工業(株) 長嶋紀彰(栃木)

(株)光 陽 (群馬)

(株)東電工舎 山田英佐夫 (東京)
京王電化工業(株) 姫野正弘 (東京)
(株)欽鍍金 中澤敏明 (東京)
(株)協 和 由田猛 (東京)
平和工業(株) 森永英明 (東京)
平和工業(株) 大建 仁 (東京)

(株)吉崎メッキ化工所 大谷 綾(東京)
サン工業(株) 関崎教一 (長野)
三光製作(株) 伊藤健太郎 (静岡)
三光製作(株) 鈴木喜郎 (静岡)
三光製作(株) 柴田和良 (静岡)
ヤマハ(株) 船井昭吾 (静岡)
ヤマハ(株) 山岡 晃 (静岡)

(資)清水鍍金工業所 清水謙一 (愛知)
太陽電化工業(株) (愛知)
(株)大和電化工業所 波田野圭一(愛知)
(有)竹田鍍金工業 桑原錠次 (愛知)
(株)二村研磨工業所 (愛知)
(株)ワカヤマ (福井)

清水長金属工業(株)精密装飾グループ(京都)
国重メッキ工業(株) (岡山)
(有)武田鍍金工業所 (四国)
高知精工メッキ(株) 山本和弘 (四国)
石川金属工業(株) 沖西成人 (九州)
石川金属工業(株) 藤田親悟 (九州)

【亜鉛めっき部門】

スズキハイテック(株) (東北)
双葉メッキ工業(株)古河工場 A チーム(茨城)
双葉メッキ工業(株)古河工場 B チーム(茨城)
宇都宮タマル工業(株) 山本勝広(栃木)
昭和鍍金(株) (埼玉)
旭産業(株) 永峯 進 (神奈川)

(株)吉崎メッキ化工所 多田繁雄(東京)
(株)会津技研 高橋 淳 (東京)
(株)東電工舎 渡辺俊之 (東京)
京王電化工業(株) 姫野正樹 (東京)
(有)金子メッキ 金子篤嘉 (東京)
(株)川上工業 鈴木 淳 (東京)
(株)九州電化 山田 亮 (東京)

興栄工業(株) 湯浅 進 (東京)
硬化クローム工業(株) 大関和幸(東京)

高知精工メッキ(株) 比与森大輔(東京)
 (有)小関化学 小菅一雄 (東京)
 (株)さくら鍍金 平林慶之 (東京)
 三友電子工業(株) 前田敏行 (東京)
 三友電子工業(株) 大谷悠一 (東京)
 (資)清水鍍金工場 野村隆弘 (東京)
 (株)瑞 光 菊地利幸 (東京)
 シルバーメッキ工業(株)高橋英樹(東京)
 昭和鍍金(株) 下田一成 (東京)
 スズキハイテック(株) 鈴木尚徳(東京)
 (株)田島製作所 竹部将高 (東京)
 日硬クローム工業(株) 清水賢一(東京)
 中嶋鍍金(株) 内田宗房 (東京)
 (株)ヒキフネ 小湊秀樹 (東京)
 (株)プレケミック 秦祐二 (東京)
 (株)トーヨー 山添将弘 (東京)
 (株)東洋技研 河野敏行 (東京)
 仁科工業(株) 熊谷 隆 (東京)
 平和工業(株) 大建 仁 (東京)
 八幡鍍金工業(株) 八幡浩二 (東京)
 (有)義山化工 義山一浩 (東京)
 (株)三ッ矢 梶 晃徳 (東京)
 (株)三ッ矢 栗原雅彦 (東京)
 (株)三ッ矢 宮内英輔 (東京)
 (株)吉崎メッキ化工所 森田秀一(東京)
 カクホン電機工業(株) 富岡昭好(長野)
 カクホン電機工業(株) 濱田祐樹(長野)
 サン工業(株) 林隆広 (長野)
 カナエ工業(株)第5製造課 (静岡)
 (資)寿鍍金工業所 (愛知)
 (株)サーテックカリヤ
 関善二・駒込英輔 (愛知)
 (株)サーテックカリヤ
 新美亜美加・石井和雄 (愛知)
 三研工業(株) 有田 豪 (愛知)
 三研工業(株) 加藤茂巳 (愛知)
 三研工業(株) 鬼頭政治 (愛知)
 (株)ダイワエクセル
 豊橋製造部A チーム (愛知)
 名古屋メッキ工業(株) 近澤忠史(愛知)
 (株)二村研磨工業所 (愛知)
 トリックス(株)化成課 永戸博基(三重)

トリックス(株)化成課三本松輝薫(三重)
 清川メッキ工業(株)B チーム (福井)
 清水長金属工業(株)自動亜鉛グループ(京都)
 メテック北村(株)
 工業技術課 増谷尚丈 (京都)
 メテック北村(株)
 本部技術部 中井庸司 (京都)
 アイテック(株) 前川周一 (大阪)
 旭鍍金(株) 中山敏 (大阪)
 因幡鍍金工業(株) 那須廣昭 (大阪)
 オーエム産業(株) 幸田浩二 (大阪)
 オーエム産業(株) 太田昌宏 (大阪)
 佐和鍍金工業(株) 浅田將稔 (大阪)
 三和鍍金工業(株) 松岡和也 (大阪)
 清水鍍研材(株) 松丸友樹 (大阪)
 (有)スリージー技研 久垣久勝 (大阪)
 (株)太洋工作所 日野義明 (大阪)
 (株)太洋工作所 岩崎慎也 (大阪)
 高田化学(株)岡山営業所大橋拓矢(大阪)
 中央化学(株) 三崎浩司 (大阪)
 日本電化金属(株) 小林秀之 (大阪)
 日本電鍍工業(株) 寺内亮一 (大阪)
 オーエム産業(株) 小野雅明 (大阪)
 (株)モリクロ 里井 繁 (大阪)
 (株)友電舎 伊藤浩修 (大阪)
 (株)ユニゾーン 河原智行 (大阪)
 (株)ムラタ 前武志 (大阪)
 佐和鍍金工業(株) 竹内徹郎 (兵庫)
 オーエム産業(株)
 めつきー課 清田弘幸 (岡山)
 中備メッキ工業(株) (岡山)
 (株)アサヒテクノ 阿倍 等 (四国)
 高知精工メッキ(株) 濱崎重広 (四国)
 (有)武田鍍金工業所 (四国)
 石川金属工業(株) 早田啓二 (九州)
 石川金属工業(株) 松本芳忠 (九州)
 吉玉精鍍(株) 佐藤和男 (九州)
 吉玉精鍍(株) 濱月良一 (九州)

註 掲載は組合順(北→南)、同組合の場合は
 申込順。組合標記にて、東京、大阪はそれぞ
 れの訓練校生を含む。

<法律改正のお知らせ>

高齢者等の雇用の安定等に関する法律の一部を改正する法律について

1. 概要

少子高齢化の急速な進展に伴い、今後労働力人口の減少が見込まれる中で、我が国の経済社会の活力を維持するためには、高い就労意欲を有する高齢者がその知識・経験を活かし社会の支え手として活躍し続けることが重要であると考えます。

そのためには、高齢者が、少なくとも年金支給開始年齢までは、意欲と能力のある限り働き続けることができる環境の整備が必要であるため、今回、高齢者雇用安定法を改正しました。

改正のポイント

高齢者の安定的な雇用確保のため、65歳までの雇用確保措置の導入が事業主の義務となったほか、高齢者の再就職促進等を図る措置が定められています。具体的な措置のうち主なものは以下の通りとなっています。

2. 改正の内容

65歳までの定年の引上げ、継続雇用制度の導入等の義務化【平成18年4月1日から施行】
定年(65歳未満のものに限ります。)の定めをしている事業主は、その雇用する高齢者の65歳^{注1}までの安定した雇用を確保するため、

- ①定年の引上げ
- ②継続雇用制度^{注2}の導入
- ③定年の定め廃止

のいずれかの措置(高齢者雇用確保措置)を講じなければなりません。

ただし、事業主は、労使協定により、②の対象となる高齢者に係る基準^{注3}を定め、当該基準に基づく制度を導入したときは、②の措置を講じたものとみなします。

(注1)この年齢は、年金(定額部分)の支給開始引上げ年齢スケジュールにあわせ、平成25年4月1日までに段階的に引き上げていくものとししました。

I 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで62歳

II 平成19年4月1日から平成22年3月31日まで63歳

III 平成22年4月1日から平成25年3月31日まで64歳

IV 平成25年4月1日 以降65歳

(注2)継続雇用制度は、「現に雇用している高齢者が希望しているときは、当該高齢者をその定年後も引き続いて雇用する制度」をいいます。

(注3)事業主が労使協定のために努力したにもかかわらず調わないときは、大企業の事業主は、平成21年3月31日まで、中小企業の事業主(常時雇用する労働者の数が300人以下である事業主をいいます。)は、平成23年3月31日までの間は、就業規則等により高齢者に係る基準を定め、当該基準に基づく制度を導入できることとししました。

十日会中国視察団 in 昆山

十日会会長 齊藤晴久



私ども十日会は、会員企業である内外ハイグラス(株)、竹ヶ原社長の協力を得て、平成17年11月10日より13日まで4日間、中国江蘇州昆山市のめっき会社及びめっき設備製造会社6社を視察しました。

十日会では久しぶりの海外視察であり、とても楽しみにしていましたが、5月の反日デモの映像を見たときは、一時は視察を断念しました。その後、様子うかがっていましたが特に目立った動きも無く沈静化しましたので決行することになりました。

今回は添乗員を付けず、旅行社にはエ
アチケットだけの手配をして頂き、ふだ
んは添乗員が行なう業務は自分たちで行
ないました。昨今、安全はお金で買う時
代ですが、あえて自分の安全を自分
で守る様な方法を探りました。執行役
員の今回の中国視察に対しての目標は、
第一に安全であり、第二に生(なま)の中
国を体感する事でした。移動ごとの人員
の確認、予定の連絡などその分団結して
行動することが、逆にそれぞれの気持ち
を引き締め、団結力が高まり良かったと
思われます。

現地での案内は内外ハイグラス様の現地社員及び三進製作所様のご協力によって達成出来ました。両社の晴らしい協力体制に対して深く感謝しています。実際の視察においても、両社より数名ずつ同行していただいたおかげで、より深く生(なま)の情報と体験を得る事ができ、より内容の深い視察になった事を大変嬉しく思

います。

今回視察した昆山市は、上海市街から西に約 70 km はなれた地点で、上海と蘇州の中間に位置します。中国でもとりわけ経済躍進が目覚しい長江（揚子江）デルタの中心に位置し温和な気候と、交通インフラなど環境が整った地域です。上海市街地の発展は目を見張るものがありますが、この地域も台湾系の企業を中心に急速に発展している地域です。

視察した企業は①日系の設備メーカー2社、②台湾系設備メーカー2社、③台湾系めっき会社1社、④中国系めっき会社1社です。

＜訪問企業概要＞

11月10日 内外ハイグラス(株) 中国太倉分社(日系設備メーカー)中国では技術的に困難な角型 FRP 槽の技術を生かし中国国内及び日本への輸出を行っている。FRP 角型めつき容器製造

中信工場(台湾系設備メーカー)FRP 丸
型めっき容器製造

11月11日 資勇五金製品太倉有限公司(台湾系めっき業者)ドアノブの亜鉛ダイカスト鑄造及び Cu-Ni-Cr めっき。台湾より数社で進出。

億鴻環保機械億有限公司(台湾系設備メーカー)めっき設備専門の、設計—製作会社。台湾 1ヶ所、中国 2ヶ所の拠点を持つ。従業員 450 名超の大企業。

太倉市月生電鍍有限公司(中国系めっき業者)製紙用ロールの製造会社。鉄棒の熱処理一切削—硬質クロムめっき—研磨

の一貫生産。10mまで対応可。この2～3年は売上200%の伸び率。

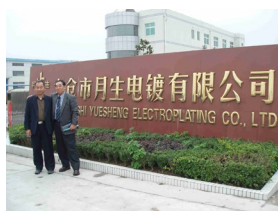
11月12日 三進化工(王不) 蘇州有限公司(日系設備メーカー)中国進出の足がかり及び日本国内への部品製造元として発足。この夏試作一号機が完成。

<視察日程>

11月10日7時45分 成田空港集合、9時45分 成田空港発 ANA919 便、12時05分 上海浦東国際空港着、14時30分 浦東テレビ放送タワー観光、17時30分 (浦東テレビ塔) 太倉内外 (FRP 角型めっき槽容器製造)・中信工場 (FRP 丸槽めっき容器製造) 見学、18時50分 昆山君豪ホテルチェックイン、19時20分 昆山小可愛レストランにて夕飯、20時30分解散。



11月11日 8時00分 昆山君豪ホテル出発、8時40分 資勇五金制品(太倉)有限公司を見学、(億鴻・巨大ファン) 10時50分 億鴻環保機械(蘇州)有限公司を見学、12時30分 直糖鎮で昼食、14時50分 太倉市月生電鍍有限公司を見学。



(月生電鍍有限公司)



(Cr 鍍金槽)

18時00分 昆山君豪ホテル到着、19時00分 レストランにて夕飯、20時30分解散。

11月12日8時30分 昆山君豪ホテル出発、11時30分 三進化工(王不) 蘇州有限公司を見学、



昆山レストランにて上海蟹の昼食、12時30分 蘇州市内観光及び庭園「拙政園」を散策、昆山君豪ホテル到着、18時00分 ホテル内レストランにて夕飯

11月13日8時30分 昆山君豪ホテル出発、10時00分 上海リニア乗車、13時



(リニアモーターカー) 15分 上海浦東国際空港出発 ANA920 便、16時50分 成田空港到着・解散

<参加者>

遠藤 清孝(有朝日鍍金工場)
上原 裕司(株)上原メッキ工業)
永田 一雄(株)梅田鍍金工業所)
太田 幸一(太田鍍金工業(株))
石川 雅一(株)三恵工業所)
齊藤 晴久(シルバーメッキ工業(株))
菊地 利博(シルバーメッキ工業(株))
飯村 光男(シルバーメッキ工業(株))
坂手 保弘(株)トーテック)
石川 英孝(株)ヒキフネ)
吉川三津雄(福井電化工業(株))
伊藤 登章(福井電化工業(株))
梅田伊三夫(ミナモト電機(株))
八幡 義一(八幡鍍金工業(株))

<まとめ>

十日会では10年前にJES秋季大会を開催した時に中国を視察したことがあります。その時と比べ中国の発展はすさまじいものがあります。早朝の出勤、大量の自転車が洪水のように押し寄せる風景はすでになく、整備された高速道路と自動車、公共バスが走っている風景に変わっていました。日本の戦後50年をここ10年くらいでいっきに追いかけているようです。

2008年に北京オリンピック、2010年に上海万博が予定されており、国をあげ目標に突進しているように感じました。

世界の工場を自負する中国であります。その実体は海外からの企業の誘致によるところが大きいのは衆知の事実です。台湾、日本、韓国、アメリカ、欧州などから、安い労働力と整いつつあるインフラを当てにして進出ラッシュが続いていました。その会社は高い技術力と、大きな資本力を持ち、更なる発展に尽力を注いでおります。これが日本国内での製造業のパイを狭める要因になっていました。今回視察した台湾系企業、日系企業は概ね該当します。

更なる脅威は、ローカル企業の存在です。硬質クロムめっきの月生電鍍有限公司は海外進出組ではなく、中国国内で起業した会社です。創業者は上海のめっき会社(たぶん元国营会社)で働いた経験があると話していました。その会社が日本国内では出来る所が少ないであろう、10mの印刷用ロールのめっきを手掛けています。中国国内での生産技術・能力の底辺がかなり向上していると感じました。

悪いことばかりではありません。億鴻環保機械(蘇州)有限公司のような、めっ

き設備専門の設備会社を視察できたことは収穫です。今まで、私たちめっき業者は、生産設備は日本国内で調達しておりました。今回視察した設備会社の中国国内での価格は驚くほど安いものでした。販売ルートやアフターサービスなどが整えば、日本に輸入することも十分検討に値します。

中国の発展による影響は、日本(又は日本国内のめっき会社)にとってマイナスの部分、プラスの部分が混在しているように思われます。単に「敵対する国」ではなく、「活用する国」と位置づけて、これからの中国と付き合っていきたいと思いました。

謝辞

今回視察にあたって、内外ハイグラス(株)、竹が原攻社長様、現地社員の趙廣新様、高翠珍様、(株)三進製作所、柳下幸一社長様、神戸君男様、現地社員の李様。皆様のご協力のもと、中国視察は無事に終えることが出来たことを心から感謝するとともに御礼申し上げます。

なお、十日会では2月例会に「中国視察団報告会」を予定しています。ふるってご参加くださるようお願い申し上げます。

(2005年11月28日)

平成 17 年工業統計調査への 協力について(お願い)

日頃から各種統計調査に多大の御協力を頂き厚くお礼申し上げます。

さて、本年も 12 月 31 日現在で、製造業を営む事業所を対象に経済産業省所管の「工業統計調査」が下記のとおり実施されます。

何かとお忙しいこととは存じますが、この調査の正確な調査結果を得るためには、是非とも皆様方のご協力を頂くことが必要です。調査期日(12 月 31 日)の前後に年末年始を避けて皆様方の事業所へ調査員がお伺いしますので、よろしくご協力をお願いします。

調査の内容については、統計法でその秘密が保護されており、統計以外の目的に使用されることは絶対にありませんので、正確にご記入下さいますようお願いいたします。

1. 調査の目的 製造業の実態を明らかにすることを目的としています。
2. 調査の対象 平成 17 年調査は製造業に属する全事業所を調査対象としています。
3. 結果の活用 各種行政施策の基礎資料としてはもとより、企業経営や各種研究資料、あるいは学校の教育資料等幅広い分野で活用されています。

問合先:東京都総務局統計部商工統計課
工業統計係 電話 03(5388)2544 直通

ましたが、お蔭様をもって定員に達しました。派遣頂いた事業所をはじめ関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。今回入校出来なかった方には大変恐縮ですが、次期第 38 期募集にお申込み頂きますよう、よろしくお願いいたします。

(株)三ツ矢新社長に草間誠一郎氏

品川支部の(株)三ツ矢は 9 月 29 日開催の株主総会において新しい同社役員を選任、それぞれ就任した。

代表取締役社長	草間誠一郎
専務取締役	草間 信頼
常務取締役	草間 康行
取締役	小澤 茂男
取締役	篠崎 順一
監査役	草間 保定
非常勤監査役	戸井田啓治

石川進造作品展

「旅のスケッチ万華鏡Ⅱ」

2006 年 1 月 16 日～22 日(月～日)／銀座・渋谷画廊

昨年 5 月に初めての個展に次いで開かれる。真夏を思わせる 6 月のスペイン、濃密な緑と赤土の色鮮やかな雨季のアンコール、秋の気配ただよう 8 月の蓼科、10 月の野菜の収穫祭までの 5 ヶ月を描いた作品が出展される。銀座・渋谷画廊 〒104-0061 中央区銀座 7-8-1 渋谷ビル 2F TEL 03-3571-0

第 37 期訓練生応募、定員達成

東京都鍍金工業組合高等職業訓練校が平成 18 年度第 37 期訓練生を募集してい



中国向け製販増強

(日刊工業新聞 05.11.15)

竹内工業(東京都墨田区、小林徹社長)は、中国・天津の生産子会社で中国市場向け化粧品容器の設計と営業体制を整える。併せて、生産設備も増強する。子会社は現在、日本で設計した低価格化粧品容器を製造している。中国では上海を中心に高級化粧品の消費が伸びており、外資系化粧品メーカーの進出が増加している。同社では営業部隊を設置してそうした顧客層を開拓する。

中国の子会社は約 180 人が勤務しており、竹内工業グループの全生産数量の 20%程度を製造している。すべて親会社への販売で売上高は05年9月期で2億円弱。06年春までに設計2人、営業2人を育成し、中国市場で自主的な販売に乗り出す。

日本で生産が終了した化粧品容器の金型をベースに、口紅やマスカラなどの中国仕様の容器を開発する。当面は、市場ニーズを見極め開発および販売する製品を絞り込む。

表面処理で新技術

(日刊工業新聞 05.11.15)

藤間精練(群馬県高崎市、藤間一夫社長)は、無電解ニッケルメッキとカチオン電着樹脂塗装を複合した表面処理技術「ハイプラコート」を開発した。近く受注を始める。複雑形状や奥行きある部分もすき間なくコーティングし、母材の耐久性を均一に高められるのが特徴。展示会などへの出展を加速、自動車や機械関連を対象に顧客を開拓し、07年4月期に1000万円の受注を目指す。

現代の名工 小澤茂男さん

(日刊工業新聞 05.11.17)

メッキ一筋38年。毛利衛氏が92年にスペースシャトル「エンデバー」内で行った金属生成実験で、光を鏡で反射させて集光し、その熱で材料を溶融するイメージ炉が使われた。楕円形の鏡の表面に施されたのが、小澤さんらが開発した高反射型特殊金メッキ加工だった。「メッキ液の完成までは早かったが、加工品質をどう一定にするかで苦労した」。若いころは夢に出てきた発想を書き留めるため、寝室の天井から紙と鉛筆をぶら下げていたという。「発想が出た翌朝は幼稚園生が遠足に行くような気分です。入社するが、やってみるとうまくいかず、また落ち込む。そんなことの繰り返し」と振り返る。メッキは液の配合比率や電流値、温度などの違いで、析出が微妙に変化する。「いまの私の役目は、長年の勘や経験を数値・理論化し、どんな環境下でも品質を一定にすること」と語る。

タイで鉛フリー薬剤

(日刊工業新聞 05.11.18)

ディップソール(東京都中央区、金森三郎社長)は、欧州特定有害物質規制(RoHS)などに対応した鉛フリー無電解ニッケルメッキ用薬剤をタイで製造・拡販する。バンコク郊外に全額出資の製造子会社「ディップソールタイランド」を設立、月内に工場を立ち上げる計画だ。

ディップソールの海外生産拠点は米国に次いで2カ所目。タイ製造子会社の社長には田村由成専務が就任した。スタート当初は鉛フリー無電解ニッケルメッキ用薬剤を製造、順次、その他の製品を生産していく方針だ。製品はタイのほかフィリピン、マレーシアなどに供給し、将来はインドをはじめ、欧州市場にも売り込む。子会社の売上高は06年度に1億バーツ(日本円で約3億円)、09年度には8億バーツ、(同約9億円)を見込む。

ねじの表面処理新評価法を開発

(日刊工業新聞 05.11.22)

関西ねじ協同組合(大阪市東成区、田島祥一理事長)は、ネジに施した表面処理の新しい耐久試験方法を開発した。新手法は 50 度Cの環境下で酸性雨と同等の pH4 の溶液を噴霧し、湿潤 16 時間、乾燥 8 時間を繰り返す。塩水噴霧試験と比べ予想寿命の信頼性が高い。表面処理の標準化された試験はなく、新手法の認知度が高まれば明確なデータを提示することができる。協組内で標準化するとともに、外部への普及を図り業界標準を目指す。

関西ねじ協同組合の研究開発委員会・表面処理グループの 13 社と八尾市中小企業サポートセンター(大阪府八尾市)の佐藤幸弘コーディネーターらが共同研究し、特許を申請した。米国自動車技術者協会(SAE)の湿潤繰り返し試験「J2334」をベースに、日本の気候条件を考慮して時間配分などを変更した。

同手法では、錆が出るまでの実際の環境と加速試験の関係を数値化した相関係数は、0.94(1 に近いほど正の相関性が高い)。主流の塩水噴霧試験は 0.02 で、信頼性が高いことが分かった。研究グループはメッキ厚やメッキの種類、ネジ素材の異なるサンプルを使い塩水噴霧、J2334、新手法の 3 種の試験でデータを収集。04 年から大阪、名古屋と静岡県御前崎市、中国・重慶市の気象観測点近くで屋外暴露試験を行い、相関カーブを作成した。結果は塩水噴霧が最も低く、J2334 が 0.19、新手法が最も高くなった。

地下汚染対策に着手

(日刊工業新聞 05.11.24)

ヒキフネ(東京都葛飾区、石川輝夫社長)は、06 年 6 月までに生産子会社のヒキフネ技研の生産設備を増設するとともに、薬液漏れなどによる地下汚染対策に乗り出す。総投資額は約 5000 万円。競争が激化している装飾メッキ事業を縮小し、欧州特定有害物質規制(RoHS)に対応する付加価値の高いメッキ設

備に切り替えることで、電機・電子部品、自動車産業の需要を取り込む。

増強する設備は RoHS に対応した鉛フリーの無電解ニッケルメッキやハンダメッキに加えて、クロムメッキのバレルメッキなどを想定。現在、三価クロムによるバレルメッキの実用化を進めている。バレルメッキは回転する容器の中で行う電気メッキ。金属小物部品の大量メッキに適する。クロムメッキ用に 1000 ㍓程度のバレルメッキ槽を導入する予定だ。ヒキフネ技研は建物面積約 900 平方㍓の地上 3 階建て。1 階部分の床を繊維強化プラスチック(FRP)でコーティングし、外部に薬液などが漏れるのを防ぐ。葛飾区に公害防止設備資金の利子補給を申請している。

同工場では現在、生産工程で六価クロムに代えて三価クロムを使い、治具に被メッキ物を引っかけるクロムメッキや装飾メッキ、ニッケルメッキなどを手がけている。三価クロムを使うメッキはユーザーの環境配慮の高まりから需要が急増している。ヒキフネではグループ全体で三価クロムを生産工程で使うメッキ槽だけで 7000 ㍓を保有している。

メッキ工程を内製化

(日刊工業新聞 05.11.24)

ファルテックは自動車部品のメッキ工程の内製化に乗り出す。事業会社のアルティア橋本の館林工場(群馬県館林市)に、約 10 億円を投じてメッキ設備を導入する。現在、メッキ工程は全量を外注しているが、7 割程度を内製化し、年間 2 億~3 億円の外注費を圧縮、収益力を強化する。

館林工場はフロントグリルやモールなど、樹脂製外装部品を生産する最大拠点。主力の日産自動車のほか富士重工業、ホンダなどに納入する。「ここ数年で最大規模」(高松克弘副社長)の設備投資で、06 年 2 月にラインを完成し 4 月の全面稼働を目指す。また日産からメッキ専門の技術者も受け入れた。量産の前に品質の安定化を図るのが狙い。

「ウェステック 2005」 めっき関係2社出展

「ウェステック 2005 廃棄物処理・再資源化展」が11月29～12月2日、幕張メッセで開かれ、めっき関係では、日本電工(株)(三井陽一郎社長)と(株)アクアテック(大西彬聰社長)が出展し、注目を集めた。

日本電工(株)はクロムを始めとする金属含有排水用の「NDミニクロパック」、ニッケル排水用の「NIーパック」、ホウ素排水用の「Bーパック」、純水製造装置「アクアパック」等を展示。NDミニクロパックは、クロム等金属含有排水処理をはじめ、めっき液等からの金属不純物の除去処理、表面処理等の洗浄水処理などが用途。高品質、低コスト、環境調和型の委託再生方式イオン交換塔である。



イオン交換樹脂に吸着したクロム分や、劣化した樹脂、廃活性炭等を原・燃料として同社内で再利用しており、クリーン・リサイクルシステムとして信頼を集めている。レンタルのほか、買い上げ、リースも選択できる。レンタル品は常に一定の能力で利用できるなどの特長がある。同社はクロム塩メーカーとして回収したクロム分はクロム酸の原料として再利用する。同ミニクロ

パックシステムは、(財)クリーン・ジャパン・センターの「再資源化貢献企業表彰」の会長彰を受賞している。環境システム営業部 〒104-8112 東京都中央区築地1-13-14 NBF 東銀座スクエア 5階 TEL03-3546-9333(直通)

(株)アクアテックは産業排水処理を中心とした環境技術開発に取組み、これまでに重金属含有排水の高度処理、有価金属の回収・リサイクル、フッ素含有排水の処理とフッ素成分の回収・リサイクル、シアン、アンモニアなど種々の窒素成分を含む排水の処理分野で新しい技術の開発を行っている。今回は同社が開発した「SSプロセス」の実績・成果をパネル展示した。

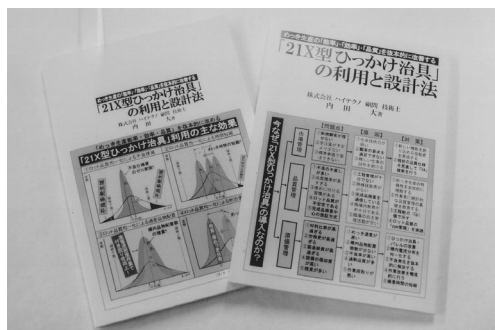


同社の説明によると、同プロセスはガスセンサーを用いて硫化剤の添加量を制御する新しい硫化物法であり、みずず工業によって、無電解ニッケルめっきの废水处理に世界で初めて採用され、安定操業をしている。新しい硫化物法は、古い硫化物法で実用の障害であった悪臭発生や沈殿のコロイド化がなく、安全でスムーズな運転がされている。また従来の水酸化物法に比べると発生するスラッジ量が1/3以下に減少している。得られる含水率の低い、ニッケル含量の高いスラッジは、山元還元用に供される。みずず工業は、新たに3倍以上の能

力をもつ「SS プロセス」プラントの発注を行う一方、ニッケル以外の金属として排水からの銅の回収にも「SS プロセス」を採用する検討を始めている。また、同社のフッ素排水処理技術は、大手メーカーの工場で実施されており、高純度のフッ素化合物が有価物として回収されている。その他、排水中の窒素成分除去技術にも早くからガスセンサーを採用するなど、多くの実績を持ち、顧客のニーズに応えているという。

〒554-0024 大阪市此花区島屋4-2-7 島屋ビジネスインキュベータ 210 号 窓口担当: 土居英樹 TEL:06-6460-0688

つき生産改革」の起爆剤。第四章「21X 型ひっかけ治具」の誕生で高付加価値「超めつき部品」生産の実現。第五章「21X 型ひっかけ治具」の設計と製作・管理の実際(目次)で構成。



「21X 型ひっかけ治具」の 利用と設計法 内田大氏出版

(株)ハイテクノ顧問・技術士の内田大氏は、めつき生産の能率・効率・品質を抜本的に改善する「21X 型ひっかけ治具」の利用と設計法(定価 2,000 円税込 送料別)を出版した。

21 世紀に入り、めつき企業も厳しい国際競争の中で強く生き抜いていくため「新しい生産方策」の研究・開発を余儀なくされている。また顧客からは、めつき部品に対する「高機能化・小ロット化・短納期化・低単価化」の要求が年々強まってきている。このような時機にめつき企業の生産性向上の一助になればとの考えから、内田氏の 40 数年間のめつき生産用“ひっかけ治具”開発・改善体験より得た設計・製作資料を中心に「21X 型ひっかけ治具」をまとめられたという。

同書は、第一章“生産ロス・ゼロ”実現を目指す『21X 型ひっかけ治具』開発の動機。第二章現場に埋もれる「生産ロス」を掘り起す「ひっかけ治具改革」の時代へ。第三章「21X 型ひっかけ治具」こそは「め

また同書利用の 7 効果として、第 1 に“過密槽内品物配置密度(dm^2/L)方式”による「作業能率の向上」・「作業時間の短縮」。第 2 に“高電流密度めつき生産方式”による「めつきスピードアップ」・「ライン生産能力向上」。第 3 に“不均等混載・混流生産方式”による「ロット品質の均一化」・「不良仕損費の低減」。第 4 に“枝骨の「理想接点化」とコーティングの密着性強化による「ひっかけ治具耐久性の向上」。第 5 に“PPm 水準ロット品質保証方式”による「品質信頼性の向上」・「クレーム・不良仕損費の低減」。第 6 に“顧客の信頼性向上”により「VA(価値分析)提案件数の増加」・「過剰品質の未然防止」。第 7 に“高品質・薄めつき生産方式”による「析出金属量の削減」・「原材料費の削減」を上げている。A 5 判本文 142 頁。申込は発行者(内田大氏)〒115-0051 東京都北区浮間 3-1-25-809 FAX03-3960-2716 へ。



錦鯉の話

広根淳一(葛飾支部)

私は、7～8 年前から錦鯉を飼っています。鯉を飼っていると言うと、皆さんは豪華な日本庭園で優雅に泳いでいる姿を想像される事と思いますが、私は瓢箪形の樹脂製の池で飼っています。以前は、父の家の庭には池があったのですが、家相上よくないと言うことで埋めてしまいました。それ以来池はわが家では作れなくなってしまいました。

でも、なんとか、理屈をつけ置いてあるならいいだろうと、既成の池を買い庭に置いてあります。なぜ、そこまでして、鯉を飼っているかと言いますと、ここからが本題です。

日本で観賞魚といえば、まず金魚を思い浮かべる人が多いでしょう。最近では熱帯魚の人気も高いようですが、錦鯉の魅力とは模様や色彩が非常に美しいばかりでなく、一匹一匹がすべてちがう模様で、同じ固体(模様)の物はまったく居ないのです。また金魚や熱帯魚とはケタはずれに大きい最大の観賞魚です。私は月に何度か鯉を販売している店に行きますが、本当に気に入った鯉に出会う事は 2～3 年に一度位しかありません。なぜなら高価な鯉は購入しないからです。死なれたら悲劇ですから、せいぜい 2 千円から 5 千円ぐらいの鯉の中から将来成長して高価な物と遜色ない

物に育つことを夢みて購入します。しかし、どういう訳か気に入った鯉に限って死んでしまう事が多いのが悩みの種です。

最近、新潟地震の影響で産地の山古志村が壊滅的な被害に遭った事は非常に残念な事ですが、被災された地域でもまた生産が始まったと言うニュースを聞いて本当によかったと思います。

最後に、家の鯉の話をしますと、朝、出勤する時玄関を出ると、口をパクパク開けて寄ってきます。ほんとうに人なつっこい魚で、犬や猫より手間がかからず、水質さえ気お付けていけば、滅多に死ぬ事もなく私のような無精者には最適なペットで、皆さんにもお勧めします。できれば本物の池がほしいなー！



広報は新しく「お気に入りの散歩道」欄を設けました。この欄は組合員の方々の身近な話題・できごと、よく行く馴染みのお店などを紹介します。各支部広報委員まで、原稿、情報等をお寄せ下さい。

つま恋坂

「ブログ」



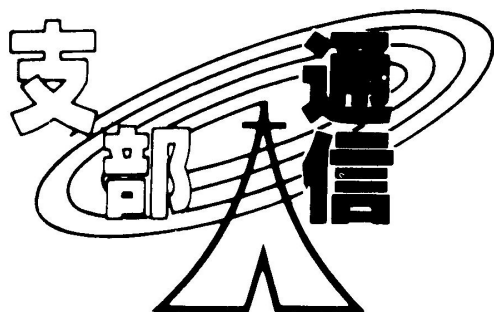
内山雄介(城東支部)

インターネットが普及し始めて何年になるのだろうか、しかしまだまだ‘一部の人間だけのもの’と言う感が否めない。どうもハードの部分で拒否反応を示す人がいまだに多いようだ、これはメーカ側に何とかしてもらわなければならない事なのだろうが・・・そんな中、今年飛躍的に普及したと思えるのが「ブログ」。今年の流行語大賞にもノミネートされた。

簡単に言うとインターネット上の‘日記’のようなもので誰でも自分の感じた事や日々の事などを書きたいときに書くと言うものだ。またその文章を読んだ人からの意見なども‘コメント’として付けられるようになっている。本来日記なんていうものは、一人でこっそり書いて引き出しにそっとしまっておくようなもの、それが今では世界中の人が読めるようなところに書いているのだから面白い。検索サイトで「ブログ」と入れて検索すれば山のように出てくるので簡単に‘他人の日記’が読める。

また、有名人によるブログも多く、話題になっているものでは現役力士・普天王関やタレントの真鍋かをり、ヤクルトの古田敦也選手兼監督などのブログが有名である。普天王関などは場所中にその日の取り組みについて書き、またそれにたくさんの人が応援のコメントを寄せたりしているので人気になっている。ほかには個人的に書いていたブログが話題になり本として出版されるケースもあるので単なる‘日記’ではなく自分を表現する場としても使える。広く不特定多数の人に自分の書いたものを読んでもらいたい時などには有効な手段だ。時間のある時など色々なブログを読み回ってみると人それぞれのモノの見方や感じ方が様々である事がわかって面白い。

いまだにインターネットは面倒だとか何をしたら良いのかわからない等と言う人でもとりあえず有名人の‘ブログ’を読んでみる事から始めると馴染みやすいかもしれない。



■品川支部・城南支部

北陸工場見学会

11月5日、品川支部と城南支部合同で福井の清川メッキ工業株式会社を見学した。

当初は品川支部だけで考えていたのですが支部統合の交流を深めるためにも、また、品川支部だけでは参加者が少なそうだったので城南支部にも声をかけ今回の総勢 13 名の北陸工場見学会と相成りました。

5日の朝8時に羽田空港第2ターミナ



ル出発ロビーに集まり、搭乗手続きを済ませるとANAに乗り、小松空港ではガイドさんに迎えられ、大型バスに乗り一路清川メッキへ向かいました。広い駐車場へバスを止めて、早速会議室にて社長の次男清川卓二氏にまず会社の経営理念などの説明をしていただいてから工場を見学し、ニッケル、スズラインとニッケル・スズの合金メッキライン等を見せていただいた。その後わが支部で昨年廃業された綱島鍍金さんより寄贈された東芝になる以前の東芝製？直流発電機の置い



(清川メッキ正門前)

である鍍金博物館とも言うべき場所を見学した。自社開発の燃料電池車等や清川メッキさんの関わった任天堂ゲーム機などの変遷の見られる商品が展示してあり楽しめた。その後紹介していただいた近くの料亭で食事をした。(店で聞いたところ清川社長の役員方がほぼ毎日誰かしら来店とのこと。)

食事の後天気の良いうちに東尋坊を見学、山中温泉の雄山閣へ、入浴後愉快的な仲居さんと戯れながら“かに”(ずわいがに)を堪能? しました。お開きとなつてからは私は部屋へひきあげたのでみなさんがどうしたか……。

さて、翌日は7時半の食事で8時半にはバスに乗って永平寺へ。見学中に雨が降ってきたけれどもガイドさんに傘を持ってお迎えをいただきバスへもどり金沢兼六園へと出発、兼六園内の店で食事をした後ガイド付きで園内見学。空港へ向かう途中北陸高速道パーキングエリア

のショッピングセンターに寄って水産物等のおみやげを購入満足して空港へ。帰りもANAで羽田へと無事にそろって帰り、空港で品川支部長の2度と幹事はやりたくないという言葉とともにお開きとなりました。

おこないが良かったのか天気にもわりあい恵まれ、行く前の日までは雨模様で肌寒かったのが当日は歩くと汗ばむくらいでした。永平寺では降られましたが帰って紅葉がきれいなくらい。兼六園で食事が終わる頃にはやんでいてしっかり見学ができました。空港へ向かう頃から本降りとなり、風も強くなって離陸時には横風で飛行機が揺れたり、積乱雲の近くで軽いエアポケットなどもありましたがおおむね順調に帰れました。(藤田直人)



(兼六園)

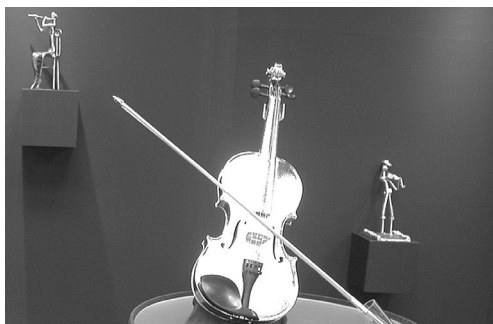
■城東支部

第7回ときめきフェアに出展

第7回「産業ときめきフェア in ED OGAWA」(江戸川区、産業ときめきフェア実行委員会の主催)が11月18~19日(金・土)、都営新宿線船堀駅前のタワーホール船堀で行われた。区内製造業を中心とした企業が製品展示・技術力を紹介し、ビジネス交流、取引等の活性化をはかることを目的に毎年開催されており、今回は130社・団体が出品した。

城東支部(遠藤清孝支部長)は毎年同フェアに展示参加し、本年は「黄金のバイオリン」をメインとするとともに、音楽関連の各種めっき加工された製品を展示し、めっきの重要性をPRした。

遠藤支部長は「毎年どのような展示内容にするか苦労しているが、入場者に如何にインパクトのあるものにするかを考え、黄金のバイオリンを飾ることにし、葛飾支部のご協力を頂いて作ることができた」と述べている。



黄金のバイオリンは、木製のバイオリンに電気が通るように下地処理(塩化パラジウム皮膜の形成)を行い、下地めっきとして、銅、ニッケルめっきをつけて、最後に24金めっき(純度98%以上)をほどこしている。

その他音楽関連として、ボルト等で作られた金めっきの楽譜、楽器を演奏する各種めっきのオブジェなどを配し、豪華な仕上がりで、しかも調和の取れた展示内容にまとめ入場者の関心を集めていた。

展示コーナーには遠藤支部長はじめ支部役員が応対に当り、来場者の質問に答えるとともに、来訪した本部役員、各支部役員の接待に当たっていた。



■城東支部

忘年会

城東支部(遠藤清孝支部長)は12月5日(月)午後6時30分から江戸川区松島の割烹いこいで41名が出席して忘年会を開催した。支部全体の忘年会は初めてという。

西田和幸総務の司会により、遠藤支部長は「来年1月12日組合本部で12支部合同新年会を開催するので支部の新年会は取りやめて忘年会を企画させて頂いた。大勢のご出席を頂き感謝申し上げます。今回は退会された方にも声をかけて来て頂いた。過日の産業フェアでは、当支部は黄金のバイオリンを展示し、各方面から高い評価を頂いて良い展示が出来たと思う。当初本物の木製バイオリンにめっきすることは技術的にも非常に難しく、果たして出来るのか不安もあったが、素晴らしい黄金のバイオリンが完成した。めっきしたのは八幡鍍金の息子さんで仕事を終えてから夜遅くまで作業して頂き、本当に感謝の気持ちで一杯である。いま耐震強度問題が世間を賑わせており、退去勧告を受けた住民の方には本当にお気の毒であると思うが、昭和40年頃の建物、マンションについても、いまの耐震基準は満たしていないといわれる。耐震基準は地震の度に厳しくなっているが昭和40年頃の建物には何故退去勧告が出ないかという当時の基準は満たしていたとい

う。現実には危ない建物があっても仮に退去勧告を出したら大混乱が起きて收拾がつかなくなるという。当業界の土壌汚染問題と照し合わせると、昭和40年頃は土壌汚染の問題はなかったが、平成15年に法律が出来て過去にさかのぼって適用される。過去にさかのぼると收拾がつかないのには目に見えており、時間をかけて対応して行かざるを得ないと思う。法律が施行されて数年が経過したが、色々な問題が浮き彫りになっている。荒川区では鉛汚染が問題になっているが、原因は戦時中の焼夷弾ではないかと見られている。法律も手直しが必要になっているのではないと思う。いずれにしても我々は厳しい状況にあるが、みなさんとともに乗り越えていきたい」と挨拶した。

来賓として都議会自民党鍍金工業振興議員連盟会長の大西英男都議会議員、高木秀隆江戸川区議会議員から挨拶があり、八幡順一副理事長の乾杯音頭で懇親会に入った。懇親会はなごやかに進み、梶原信孝相談役の中締めにより終了した。



■城西支部

顧問相談役会

11月16日(水)、池袋メトロポリタンホテル25階「マーキュリー」にて、午後6時より城西支部顧問相談役会が行われた。

苅宿充久副支部長の司会により開会、まず小橋秀一支部長は「この半期で勉強会3回、例会4回を行いました。また、他支部との合同事業の事も考え、先日西部支部と合同で屋形船を行いました。今後残り半年、顧問相談役の皆様の知恵を拝借して活動していきたい。宜しくお願い申し上げます」と挨拶をした。

この後の議事は次の通り。

1. 事業報告 石田義勝副支部長より上半期の事業報告を行った。
2. 収支報告 田辺良勝事務局より上半期の収支報告を行った。
3. 本部報告

由田猛副理事長より「半年間、無事支部の運営をされていることに敬意を表します。現在本部としては環境問題が大き



な問題となっています。今後も組合と全鍍連と連携して、強い組合にしていきたいと思います。今後とも宜しくお願い致します」報告があった。

広報委員会・溝口昌範委員より「広報10月号より“お気にいりの散歩道”という新しいシリーズがはじまりましたので、よろしくお願いします」と報告した。

技能教育委員会・苅宿充久委員より「7月23日、24日の技能検定試験の結果報告として1級が6名、2級が22名、3級が1名が合格した」旨報告があった。

4. 支部報告

総務委員会から佐藤委員、広報委員会から高橋委員、環境委員会から滝本委員



の報告があった。特に広報委員会より「支部だより」発刊 30 周年記念誌を製作中である旨の報告があった。最後に小橋支部長より、今年は城西支部 40 周年なので、来年の総会の時に式典を行う旨の報告があった。

5. ご意見拝聴

顧問相談役として、戸塚由雄顧問、佐藤雄三顧問、飯島昭相談役より「限られた人数で精一杯活動をしていると思います。これからも 40 周年に向けてがんばって下さい」旨のご意見を頂いた。

以上の議事を全て終了して、最後に石田副支部長の閉会の挨拶により顧問相談役会を閉会し、懇親会へ移り、約 2 時間の宴会の後、お開きとなり、平成 17 年度の顧問相談役会は終了した。

(広報委員)

■足立鍍友会

忘年会

足立支部(永田一雄支部長)の青年部組織足立鍍友会(高橋利男会長)は 11 月 25 日(金)、15 名が参加し、午後 7 時より上野広小路「鼯屋 (ひいきや)」で忘年会を開催した。高橋会長の挨拶では「12 月に入ると得意先の忘年会などで欠席者が増える心配があるので、今年は 11 月下旬にした。今年は足立鍍友会としては若手の会員に技能検定の受検を勧め、一級・二級の合格者があった。また、10 月には工場見学会も開催した。

これもひとえに支部長の応援の賜である。」との挨拶があった。続いて永田支部長より、「このような人と人との交流は重要な事である。これからもこのような交流を大切に、また支部に対してもいっそうの協力をお願い申し上げる。」という話で乾杯に移った。乾杯は足立鍍友会会員として参加した小澤栄男氏の音頭により開宴した。いつもながらの和やかな雰囲気の中で 2 時間が過ぎ、磯村博明氏の中締めにより閉会した。(小島一浩)



■城北・中央・足立支部

三支部会

城北支部(今泉好隆支部長)、中央支部(木下好雄支部長)、足立支部(永田一雄支部長)は11月18日(金)午後6時から西新井大師門前の武蔵屋で恒例の三支部会を開催した。

今回は足立支部が幹事となり、足立支部の細井碧副支部長の司会により、橋本英雄副支部長の開会の辞のあと、永田支部長は「今年は足立支部の担当で設定させて頂き多数のご参加を頂いて感謝申し上げます。先週4日間中国を視察してきました。3年前に工業組合で視察した時は大丈夫かなという印象であったが、今回は日本の大手薬品メーカー、台湾の優秀な設備メーカーが装置を作り、日本と同じようにめっきが出来るのではないかと思います。ただ向こうへ行った方々の話し合いの場がないということで、日本ではこ



(永田足立支部長)

うしてみなさんが集まり、技術などを教え合うネットワークがあり、日本もまだまだ見捨てたものではないと思う。今後も三支部のネットワークを活かして我々めっき業が発展するようにお願いしたい」と挨拶した。

木下中央支部長は「日頃はお世話になり感謝申し上げます。本来なら間部副理事長が出席して挨拶しなければならないが、出席できないので三支部のみなさんによくお礼を言って下さいということでした。我々業界は土壤汚染問題をはじめ色々な環境問題を抱えている。先に支部で土壤汚染問題の講習会を開いたところ、初め





(木下中央支部長)

てお会いする方もあり如何に土壤汚染問題が心配されているかである。三支部会で情報交換をして、良い案があったら教えて頂きたい。今日歴代支部長から余り暗い話はしないで明るい話をしなさいと言われたが、明るいことは株価が上がっているくらいであとは厳しいことばかりである。少なくとも三支部のみなさんと力を合わせて元気よく、今後も5年10年と三支部が継続出来るよう頑張っていきたい」と挨拶した。



(今泉城北支部長)

今泉城北支部長は「担当の足立支部さんご苦労様。右も左も分からないまま支部長になって半年が過ぎたが、素晴らしいスタッフを抱えおり、いつも電話でこれ忘れてないと心配を頂いている。木下支部長、永田支部長とは昔ある会で一緒

に役員を務めた仲であり、こうして同じ時代に支部長となったことを嬉しく思っている。三支部会は親睦を主としてきたものと思うが、今宵は大いに飲んで楽しく親睦を深めさせて頂きたい」と挨拶した。

この後、出席者の紹介、各支部事業活動報告（石川芳英足立支部総務、新井富保中央支部副支部長、今村和則城北支部総務）があり、永田吉輝足立支部顧問が「久しぶりに先輩方を拝見して嬉しく思う」と述べ乾杯音頭をとった。

懇親会では東松国雄中央支部顧問、野上栄一城北支部相談役から三支部会の歴史や思い出が語られなどなごやかに進められ、菊池浩司足立支部監事の中締め、小澤栄男常任理事の閉会の辞をもって懇親会を終了した。当日の出席者は次の通り(順不同、敬称略)

城北支部	中央支部	足立支部
野上 栄一	東松国雄	永田吉輝
鈴木 康之	内山弘一	長崎三治
海野 吉正	下平 誠	小沢栄男
平野普三雄	小嶋撰郎	永田一雄
成瀬 勝正	木下好雄	細井 碧
篠根 健一	新井富保	橋本英雄
今泉 好隆	斎藤 功	磯村博明
高松 俊和	横井紀一	石川芳英
田村 卓也	石井徹夫	橋本 孝
野上 敬		内山 昇
上田 浩司		松井直巳
大和田昌宏		菊池浩司
今村 和則		豊田金造
茅野 一彦		高橋利男
大塚 伸吾		
須永 操		

東京都中小企業の景況(11月調査) 東京都産業労働局商工部

○都内中小企業の業況 DI は3ヶ月連続して前月比1ポイント増加し、弱いながら上向く動きが続いている。前年同月比売上高 DI は全業種で増加し、わずかな改善となった。今後3ヶ月の見通し DI は3ヶ月連続の増加で、回復への期待感を保持している。

○10月の都内中小企業の業況 DI は▲32(前月▲33)と3ヶ月連続して前月比1ポイント増加し、弱いながら上向く動きが続いている。業種別にみると、製造業は▲26(同▲27)と前月比1ポイントの増でほぼ横ばいに推移。卸売業は▲34(同▲34)で4月以降、動きの乏しい状態が続いている。一方、前月悪化した小売業は▲50(同▲57)と前月比7ポイント増加し、再び改善に転じた。サービス業は▲20(同▲18)と前月比2ポイントの減少でわずかに悪化した。

業種区分別にみると、製造業では「電気機器」が3ヶ月連続の改善となった。卸売業は連続して改善を示していた「食料品」が、パン・菓子関連の不調により大幅に悪化した。サービス業は「個人関連サービス」が連続して改善した。

○前年同月比の売上高 DI は、前年より台風の影響が少なく▲31(前月▲34)と前月に続いてわずかな改善となった。業種別にみると、小売業、サービス業は前月比3~4ポイント増とわずかに改善し、製造業、卸売業は1ポイント増とほぼ横ばいに推移した。

○当月と比べた今後3ヶ月(11~1月)の業況見通し DI は▲13(前月▲14)と前月比1ポイント増でほぼ横ばいながら、3ヶ月連続の増加で回復に対する期待感を保持している。業種別にみると、サービス業が前月比3ポイント増と明るさを増している。卸売業は前月比2ポイントの減少で、わずかに厳しくなるとみている。なお、製造業と小売業はほぼ横ばいであり、ともに見方を変えていない。

編集後記

最近JR駅構内で買物をする機会が増えた。かつて駅構内といえばキヨスクか立ち食いそば店くらいしかなかったが、いまや少し大きな駅にはレストランや大型書店、女性専用店、理髪店など生活にかかわるお店がそろっている。特に大きな駅では大衆酒場まであってどこも賑っている。利用者にとっては駅から出ることなく利用できるなど便利である。民営化に伴い、地の利を活かして利益が上がるものなら何でもやろうという事だろうが、利用者にとっては便利でよいが、駅以外の既存店には影響があるのではないかと思う。

今年も余すところはわずかとなったが、今年の暮れは各支部の忘年会が盛大に行われた。昨年から本部主催の12支部合同新年会が開催されている関係で、これまでの各支部単位の新年会を忘年会に切り替えた

ところが多い。1年の始まりも大切だが、1年を締めくくる忘年会も有意義なものとなっている。

広報12月号

印刷 平成17年12月15日
発行 平成17年12月15日
(毎月1回20日発行 第38巻第12号)
発行所 東京都鍍金工業組合
〒113- 東京鍍金公害防止協同組合
0034 東京都文京区湯島1-11-10
Tel 03(3814)5621 FAX03(3816)6166
発行責任者 大村 功作
編集責任者 神谷 博行
印刷 スザキ企画 Tel 047(338)1222
〒272-0802 市川市柏井町2-1419-4
定価 500円